



2022.8

《 精索静脈瘤について 》

泌尿器科 飯島 将司

金沢市立病院の泌尿器科の飯島といいます。今年の4月から金沢市立病院で勤務しています。私は男性不妊症を専門にしており、月曜日から金曜日の午前中は一般泌尿器科外来、金曜日の午後に専門外来として男性不妊外来を開いています。男性不妊外来は患者様一人一人に十分な時間が取れるよう、また精液検査を個室で行えるよう完全予約制としています。今回は、男性不妊症の原因で最も多い精索静脈瘤について紹介します。



精索静脈瘤は精巣につながる精索静脈（精巣静脈）が逆流を起こし拡張する疾患です。血液が逆流する事で精巣の精子を作る機能が障害されたり、慢性の陰嚢痛の原因になったりします。男性不妊症の2-4割の原因を占めるとも言われており、男性不妊外来ではよく見つかります。基本的には無症状であることが多いですが、陰嚢の慢性痛の訴えで見つかることもあります。いずれの場合も、手術や塞栓術などで物理的に逆流を消失させる以外に治療法はありません。当院では精索静脈瘤の治療として最も推奨されている顕微鏡下手術を行っています。鼠径部の2cm程の創で、顕微鏡下に精巣動脈やリンパ管といった肉眼では視認が難しい脈管を温存しつつ、静脈を結紮・切断します。1-2時間程度で終わり、1泊入院で管理しています。術後に精液所見が劇的に改善することもあり（精子濃度が1000万/mLから1億/mLぐらいいまで改善した方もいます）、最大の目標である自然妊娠に至る方もいます。

男性不妊外来では、初回の精液検査の方やいしかわブレ妊活健診で異常を指摘された方などの検査も行っています。不妊でお悩みの方がおられましたら、ぜひご利用いただければ幸いです。

《 抗VEGF薬硝子体内注射について 》

眼科長 山田 結子

2022年4月から新たに抗VEGF薬(アイリーア®)硝子体内注射を導入しました。VEGF(血管内皮増殖因子)は血管内皮を増殖させ血管新生を促す成長因子であり生体内で重要な役割を果たしています。VEGFが眼内血管新生の責任分子であること、さらに血管透過性の亢進や浮腫を誘発することが明らかとなっています。抗VEGF薬硝子体内注射は、新生血管の成長を抑制したり血管からの浸出液を抑えることにより、病状を改善する治療法です。下記の疾患が適応となります。



【加齢黄斑変性】

加齢によって黄斑がダメージを受け、網膜の血管に異常が起こり新生血管から出血したり浸出液で黄斑障害を生じたりして視力が大きく低下します。

【網膜静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫】

網膜静脈が詰まり血液の流れが悪くなります。血液が血管外にあふれ出し、網膜出血や浮腫を生じて視力が低下します。主な原因として、高血圧や糖尿病、高脂血症による動脈硬化などが挙げられます。

【病的近視における脈絡膜血管新生】

強度近視は、角膜から網膜までの長さが通常より長く伸びます。眼底も長く伸びるため、網膜色素上皮が裂けたり血管が障害されて、さらにその部分に新生血管ができて出血したり浸出液がたまったりして視力低下を引き起こします。

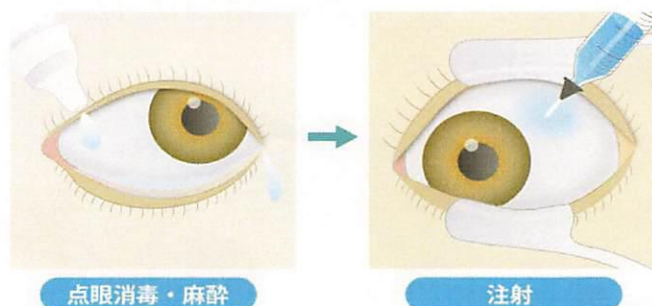
【糖尿病黄斑浮腫】

糖尿病網膜症の合併症の1つで、傷んだ毛細血管から血液の成分が漏れ出して黄斑部の網膜がむくんでしまう状態です。

【血管新生緑内障】

糖尿病網膜症、網膜中心静脈閉塞症、内頸動脈閉塞症などの眼内虚血に起因して発症する難治性疾患です。虹彩や隅角にできた新生血管により房水の流出が妨げられて眼圧が上昇します。

黄斑は網膜の中心にあり、物を見るのに一番大事なところです。これまではその黄斑部が傷害されると治療が難しく、恒久的な視力障害をのがすことが多々ありました。病初期から抗VEGF薬投与を開始することにより、視力を改善したり維持したりすることが可能となりました。



黄斑疾患では、視力低下・中心暗点・歪視等をきたします。もしこのような症状のある方がいらっしゃいましたらご紹介いただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

《 入退院支援室のご紹介 》

入退院支援室（看護師長）

山田 博子

当院は、入院患者さんが退院後も安心安全な療養生活を送ることができるための支援部門として、平成22年に「退院支援室」を開設しました。その後、平成31年より入院時支援を開始したことを機に「入退院支援室」と改名しました。入院時支援では、予約入院の患者さんに対し入院前から療養生活に必要な情報収集や退院に向けての療養に関するアセスメントや介入を行っており、現在6名の看護師と3名の社会福祉士が支援を行っています。令和3年度の実績では、入院前からの支援は88件、退院支援件数は1215件と年々介入件数も増えてきています。また、必要な患者さんには退院後に病院看護師がご自宅に出向き、退院後訪問（※1）を行っています。

最近では、終末期や医療処置を継続しながらでも自宅退院を希望される患者さんやご家族が増えています。患者さんやご家族の「自宅に帰りたい、帰してあげたい」という希望や、「数日のみ自宅に帰って家族と過ごしたい」という意向に沿い、時期を逃さず帰ることができるようにできる限りの対応をしています。昨今は、コロナ禍の影響により以前の様な対面でのカンファレンスが難しくなったため、現在は院外だけでなく院内でもWebを使用したハイブリッド形式でのオンラインカンファレンスを行っています。カンファレンスに参加いただく院外の専門職の方々には、事前に患者情報をファックスで送り、カンファレンスが効率的に30分程度で終了するように準備しています。

当院は患者さんやご家族が安心して退院できるように、療養生活を支える地域の専門職の方々との連携を深めていきたいと考えています。登録医の先生方にも、カンファレンスのお声かけをさせていただきますので、是非ご参加ください。よろしくお願いいたします。

※1：診療報酬上の要件を満たす患者さんを対象に訪問指導を行っています



院内オンラインカンファレンスの様子



退院後訪問

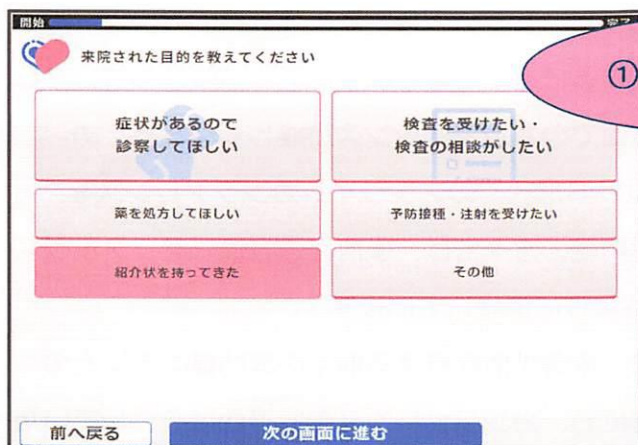


《 AI 問診の本格運用を開始しました 》

昨年度導入しましたAI問診について、対応診療科を拡大して本格運用を開始しました。

初診の患者さんには、AI問診用のタブレットに主訴を入力していただき、それをもとにAIが最適化した質問を自動生成、聴取します。これにより、患者さんの伝え漏れを防ぐとともに、効率的に情報収集を行うことができます。また、問診結果は簡単に電子カルテに取り込むことができるため、患者さんの待ち時間短縮にもつながります。AI問診を利用した患者さんからは、「簡単で入力しやすい」「伝えたいことが的確に伝わる」「難聴があるため便利だった」など、大変ご好評をいただいています。

今後もさらに対応診療科を拡大し、診療の充実化、患者さんの満足度向上を図ってまいります。



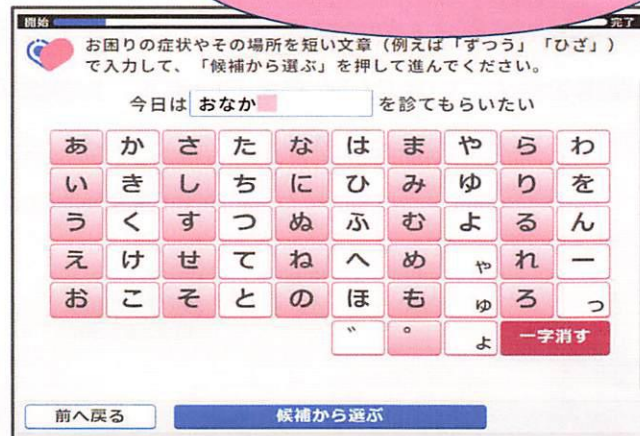
開始

来院された目的を教えてください

症状があるので診察してほしい	検査を受けたい・検査の相談がしたい
薬を処方してほしい	予防接種・注射を受けたい
紹介状を持ってきた	その他

前へ戻る 次の画面に進む

① 来院目的を選択



開始

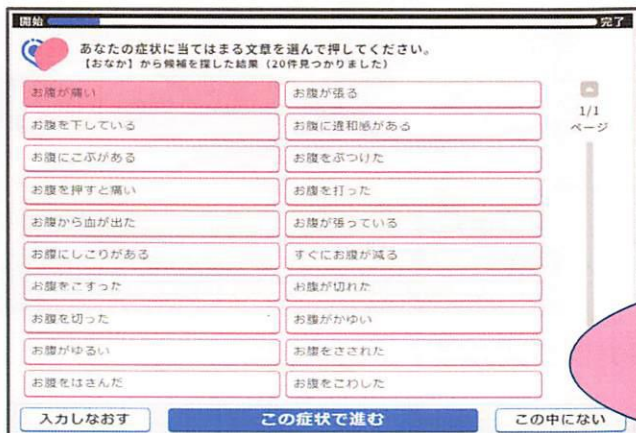
お困りの症状やその場所を短い文章（例えば「ずつう」「ひざ」）で入力して、「候補から選ぶ」を押して進んでください。

今日は を診てもらいたい

あ	か	さ	た	な	は	ま	や	ら	わ
い	き	し	ち	に	ひ	み	ゆ	り	を
う	く	す	つ	ぬ	ふ	む	よ	る	ん
え	け	せ	て	ね	へ	め	ゃ	れ	ー
お	こ	そ	と	の	ほ	も	ゆ	ろ	っ
								ゝ	ゞ
								よ	一字消す

前へ戻る 候補から選ぶ

② 症状を簡単に入力し、候補を表示させる



開始

あなたの症状に当てはまる文章を選んで押してください。
【おなか】から候補を選んだ結果（20件見つかりました）

お腹が痛い	お腹が張る
お腹を下している	お腹に違和感がある
お腹にこぶがある	お腹をぶつけた
お腹を押すと痛い	お腹を打った
お腹から血が出た	お腹が張っている
お腹にしこりがある	すぐにお腹が減る
お腹をこすった	お腹が切れた
お腹を切った	お腹がかゆい
お腹がゆるい	お腹をさされた
お腹をさした	お腹をこわした

入力しなおす この症状で進む この中がない

③ 候補のなかから詳しい症状を選ぶ

→ 詳細な質問へ

金沢市立病院 地域連携室

〒921-8105 金沢市平和町3丁目7番3号

TEL:245-2626(直通) FAX:245-2693(直通)

<http://kanazawa-municipal-hosp.com/>